

緩和ケアだより

第6版
平成27年3月1日
公立八鹿病院緩和ケア病棟



一面銀世界に染まった但馬の地も、春の訪れを感じる季節となり、緩和ケア病棟の庭園の草花のつぼみも少しずつ膨らみ始めています。昨年11月に「第8回ひだまりの会」、12月に「第1回緩和ケア研修会」を開催でき、その様子を皆様にご紹介したいと思います。また、クリスマス会では患者さんとご家族が一緒になって、かわいいクリスマスツリーを作り、笑顔に包まれたひと時を過ごしました。

遺族会を終えて

緩和ケア病棟では「グリーフ・ケア」を目的とした遺族会を行っています。グリーフとは「悲嘆」を意味しますが、大切な人を亡くされたご家族は、それぞれの方法と時間をかけ、大きな喪失感や悲しみから立ち直ろうとされています。緩和ケア病棟では、少しでもその支えになりたいと思い、年に一度「ひだまりの会」と名付けた遺族会を開催しています。

11月15日に行った「第8回ひだまりの会」には27名の参加がありました。医師、看護師、音楽療法士、ケアマネジャー等のスタッフが同じテーブルを囲み、近況や思い出を語り合いながら入院中の様子を振り返り、音楽療法士とともに「ふるさと」などを歌って過ごしました。初対面となる方々がほとんどでしたが、お互いの思い出を話され、患者さんとの懐かしい記憶に涙と笑顔が絶えない会となりました。「こんな会ならまた来たい」「迷ったけど来て良かった」「たくさんの方の体験をきいて励みになった」というご意見をいただきました。ご遺族の方々とお過ごしたことで、再び学ばせていただいた事がたくさんあり、充実した時間を過ごすことができました。これからもこの会を継続し、更に皆様の要望に応えられる会に育てていきたいと思っております。



緩和ケア研修会を終えて

『ひだまりの会』出席後のアンケートに『グリーフケアに関する研修会を希望する』という意見がありました。その希望にお答えするため、そして、但馬の医療関係者の皆様に広く緩和ケアを知っていただくために12月7日に『第1回緩和ケア研修会』を開催しました。八鹿病院、第一会議室はご遺族をはじめ、但馬内の医師、看護師、薬剤師、事務職員など、約90名の方にご参加いただきました。みなさんのご理解、ご協力を深く感謝いたします。

谷風院長のあいさつにはじまり、岸本医師からトータルペイン、疼痛コントロールとその副作用、鎮静について、病棟看護師から緩和ケア病棟の設備とそこで生活される患者さんの様子、グリーフケアに

関する知識とグリーフワークをされるご遺族に向けてのメッセージといった内容で約3時間の研修を行いました。その後、希望される医療関係者の方には病棟を案内し、ご遺族の方には病棟スタッフやご遺族同士でゆっくり思い出を語っていただけるような茶話会を準備しました。その他、会場には緩和ケア病棟で提供している相談食や、『緩和ケアだより』、ひな祭り会、クリスマス会といった病棟行事の様子を紹介させていただくブースを作りました。

参加者の方々からは「今後も続けてください」「緩和ケアについてもっと詳しく聞きたい」といったご意見をいただきました。たくさんの貴重なご意見を参考に、来年度はより一層みなさんのご希望にお答えできる研修会を提供していきたいと考えております。



緩和ケア研修会の様子



病棟行事など展示ブースの様子



クリスマス会を終えて

12月16日『みんな笑顔でクリスマス』をテーマに、患者さんご家族、スタッフの総勢30名でクリスマス会を行いました。患者さんやご家族も、トナカイのカチューシャやサンタの帽子をかぶり、全員で「赤鼻のトナカイ」を歌とダンスで楽しみました。また、折り紙で作った小さなクリスマスツリーに飾り付けをして、個性豊かなツリーをお部屋に飾ることができました。ある女性の患者さんは、「初めて部屋から出たわ。こんなところがあったのね」とご主人と笑顔の写真ののこすことができました。患者さんご家族、スタッフともども笑顔で優しい空気に包まれた時間を過ごすことができました。



～編集後記～

総合案内のカウンターに、手作りのお雛様が飾られています。「かわいいね」と足をとめて、優しいまなざしで眺めておられる光景を目にします。3月は桃の節句ですね。おだいき様とおひな様の愛らしい姿に、心癒される今日この頃です。